

あ の と き の “ ち ょ っ と い い 話 ” 、 今 ま さ に 進 ん で い る “ 新 し い 取 り 組 み ” 。 北 海 道 医 療 大 学 が 、 こ れ か ら 未 来 へ 向 か う 姿 を 探 る た め に 、 本 学 の 歩 み を “ 知 る 人 ” 、 “ つ く る 人 ” に 、 お 話 を う か が っ て い け ま す 。

## 医療大のつながりを生かせば、常識さえ、変えられるはずです。

### 看護師から、福祉専門職へ。

社会福祉法人の常務理事、統括事業管理者として、障がい者が暮らしやすい世の中について考えている私ですが、20年以上前に、看護師としての勤務経験があります。1994年、福井県立短期大学(現・福井県立大学)第一看護学科を卒業後、神戸市内の総合病院で勤務しながら進学と保健師の資格取得をめざしていたのです。

進学先を本格的に検討していた際、友人が教えてくれたのが、医療大の看護福祉学部医療福祉学科(現・臨床福祉学科)で編入学生を募集中、という広告。福祉の学科でありながら、看護福祉学部という名の学部にあるため、看護の専門性が生かせるのではないかと。そんな単純な理由と勢いだけで、福祉のことなどまったく知らないまま、北海道へ向かいました。福祉専門職が、かつて私がめざしていた保健師と同じく、地域社会で幅広く活躍できると知ったのは、入学後のことです。

1995年、医療福祉学科1期の3年生となりました。その年は編入学生が多く、私を含めて9名。一般企業で企画や営業を担当していた人、保育士や歯科衛生士の資格を持つ人、親も兄弟も医師という医療一族の人など、多彩なバックグラウンド、自分とは違う価値観を持つ仲間と出会いました。医療大へ行かなかっただら、そんな人たちと出会う機会は一生なかったかもしれません。人とつながることで、自信もついていった学生時代でした。

また、福祉の現場で活躍する先生方が多いのも、医療大の特色です。私の興味に応じて現場とつな



医療福祉学科(現・臨床福祉学科)の第1期生として編入学した9名。写真2列目左、黄色い服を着ているのが小畑さん。多彩なバックグラウンドを持つ仲間との出会いと深い交流は、人とのつながりを大切にし、それを生かしながら事業を展開していく小畑さんのルーツとなった。

いでくれたことは、とても貴重なことでした。卒業研究では、所属ゼミの先生が紹介してくれた精神科病院で患者さんにインタビューを行ったのですが、その病院は卒業後の就職先に。また、現在の職場である社会福祉法人さっぽろひかり福祉会へ誘ってくれたのも、当法人の理事である医療大の先生です。

### パンをつくる。その人が変わる。

さっぽろひかり福祉会は、精神・発達障がいのある当事者を中心とした約100名の支援を行っている社会福祉法人です。数ある運営施設の中でも、35名の当事者が、道産食材、オリジナルの天然酵母を使ったパンを製造・販売しているパン工房ひかりは、長年目標にしている年間売り上げ1億円に一歩ずつ近づいています。地域の方々や医療大の関係者にも浸透してきた実感があります。

札幌市営地下鉄東豊線「新道東」駅からすぐという、市街地にあることも特長です。障がい者の事業所は人里離れた場所にあることが多いですが、街中で地域住民の方々や密接に関わりながら、やりがいを持って働くことが大切だと考えるからです。その効果があるのでしょうか。もし、ひかり工房を見学されたら、“障がい?”と思うのではないのでしょうか。生き生きと働く現場では、その平等感がなんといっても魅力です。

私たちが、パンづくりを通してめざしているのは、今までの常識を変えること。つまり、障がいがあっても当たり前のように働き、最低限の生活を送ることができる環境をつくることです。障がい者の問題は、貧困です。たとえば、障がい者の事業所で得られるひと月の工賃は、20年前で3,000円から5,000円程度でした。今でも、就労継続支援B型事業所の道内平均工賃は18,000円です。それを当たり前と見るか、おかしいと見るか。後者と考えた私たちは、売り上げを伸ばすことをめざしています。現在は、当事者が最低限の生活を送るための工賃や賃金を支払うことができるようになりました。

当事者の収入が安定することで、その生活にも変化が見えてきました。ローンを組んで車を買った人、一人暮

## 小畑 友希さん

(看護福祉学部 医療福祉学科 1期生)

大阪府生まれ。看護師としての勤務を経て、本学看護福祉学部医療福祉学科(現・臨床福祉学科)3年次編入学。1997年卒業後、精神科病院ソーシャルワーカーを経て、2000年から光共同作業所(現・社会福祉法人さっぽろひかり福祉会)へ。同法人が運営するパン工房ひかりのサービス管理責任者、施設長などを歴任し、2016年から同法人常務理事、統括事業管理者。本学特別講師、臨床福祉学科同窓会長も務める。



らしをはじめた人、さらには、職場内結婚をしたカップルもいます。働くことは、収入を得られることはもちろん、ライフスタイルやその人自身を変える力にもなる。当事者から、あらためて教わりました。

そして、私たちが売り上げを伸ばせたのは、医療大の先生や卒業生の方々の大きな支えがあったからです。現在、パン工房ひかりの商品は、医療大のキャンパスから、道内各地の医療機関や福祉施設まで、さまざまな場所で取り扱われています。それは、多種多様な場所でリーダーとして活躍している医療大の関係者が、私たちの取り組みを理解し、あたたかい声をかけてくれたからです。

### 誰もが、福祉に理解のある大学。

さっぽろひかり福祉会では、福祉専門職をめざす実習生の受入れも行っています。また、臨床福祉学科では、私も講義を担当し(3年次「精神保健学II」)、パン工房ひかりをはじめ当法人のさまざまな取り組みを紹介しています。

実習や講義を通して伝えたいのは、人とのつながりを生かして、今までの常識を変えられる、福祉の仕事のおもしろさ。多職種連携を学んだ医療大の学生たちは、幅広い分野に興味を持ち、学部学科を越えたつながりをつくることはできています。ですから、世の中の常識を疑う視点も得てほしいと期待しています。

また、自分のやりたいことや興味のあることを、先生や仲間積極的に発信してほしいと伝えていますが。私も在学中にさまざまな実習先やボランティア先を紹介してもらったように、医療大の先生方は、現場とのつながりが強く、一人ひとりの学びの意欲にしっかりと応えてくれます。

ここは、多職種連携を学ぶ医療系総合大学。関係者の誰もが、福祉に対する理解があります。それこそが、ほかの福祉系学科とは違う、医療大ならではのメリットです。私たちさっぽろひかり福祉会も、医療大のつながりに支えられて、ここまで成長することができました。今まで出会った人。これから出会う人。医療大を通して出会う人の縁を、大切にしてください。いつか、自分で福祉事業をはじめるといふときが来るなら。きっと誰もが、心強い理解者になってくれるはずですよ。